選挙事務所に行ってみた!!

「アポなし」
”突撃”
選挙事務所
レポート!!

天見谷行人

「選挙事務所に行ってみた！！」企画趣旨

こんな企画を企てたのは、他でもない、最近の世の中の動き、その空気感が、どうにも「キナ臭い」からである。
僕は今まで、選挙にも全く関心がなかった。政治家になりたい奴なんて、どうせロクな人間はいない、などと思っていたのだ。僕のブログやFacebookにも、政治的な発言は極力抑えてきたつもりだった。なにより、政治や選挙の基礎知識すら、僕は持ち合わせていないからである。
そんな僕でも「安保法制」や「憲法解釈で集団的自衛権を行使できる」などというのは、これは行き過ぎではないのか？　と思った。
そこへ来てとうとう「憲法を改正しよう」と言い出した。
「オイオイ、マジかよ、この国は」
僕はここ数年、ヒトラーとナチズムに興味があり、ちょうど関連書籍を読んでいる最中だった。
麻生大臣が「ナチスのやり方、あれに習ったらどうかね？」
という発言には唖然としたが、
最近では「緊急事態条項」とかいう用語まで乱れ飛んでいる。
僕は全身麻酔で３回手術を受けた。それで例えれば「緊急事態条項」とは
「憲法に全身麻酔をかけること」である。
それこそ「仮死状態」にされるのだから、どこをどう切り取られようが、まさに
「まな板の上の鯉」状態。機能停止になるのだ。
「日本国憲法」って、そんな軽々しいものなの？　という疑問を持った。
さらに、僕はかつて「株」のデイトレードをやっていた経験がある。
株取り引きについての基礎知識は多少ある。
そこへ国の独立行政法人「GPIF」が、国民の年金（まあ、税金ですわな）を、じゃぶじゃぶ使ってその挙句、5兆円の損失を出した、というニュースを聞いた。
「そんなもん、やったらアカンやろ？　完全にアウトやんか！」
僕の株トレードの経験から、これだけは言わせてもらう。
「株は紛れもなくギャンブルである」ということだ。
国家ぐるみでギャンブルをやっているのだ。（まあ、公営競馬というのはあるけれど）
しかし、国民の税金を「国民の承諾も得ずに」かってにギャンブルにつぎ込むのは、どうみたって尋常な感覚ではない。
これは、もはや、れっきとした「詐欺・横領」「犯罪行為」
日本国民全員に対する「背任行為」である。
ここまで、おかしなことをやっている、それを認めている現政権に対して、僕は猛烈な不信感を抱いた。
そんな時に、参議院議員選挙の時期がやってきた。
そして、今回から18歳選挙権が導入された。若者はどう行動するのだろう？
テレビや新聞では、自民、公明などが参議院で３分の２以上の議席を獲得すると、

今後一気に「憲法改正」の動きに突き進むだろう、と報じている。
これは、えらいことになったなぁ～、と56歳のオッサンである僕も、じっとしておれなくなった。
何か、したいけど、何をしていいか分からない。
僕にできることは何か？
僕は文章を書くことがそれほど苦ではない、というか、まあ好きな方だ。
ならば、自分の目で、この選挙をレポートできないか？　と思いついた。
それも、天下国家を論じる国会や永田町を取材するのではなく、あくまで僕の地元である、兵庫県神戸市での、各政党の選挙活動を、できる範囲でレポートしてみたい。
だが最低レベルの生活水準であるぼくが（ちなみに月１０万円で生活してます）金のかかる取材などできない。
そこで、おもいついたのが
「とりあえず、選挙事務所に行ってみようかなぁ～」ということだった。

ちなみに前回2013年7月の参議院議員選挙、兵庫県の投票率は53,02％　全国の投票率は52,61%である。
（引用元；選挙ドットコム）
つまり、有権者の半分近くが、日本国民のせっかくの権利を使うことなく、むざむざと「ドブに捨てている」状態なのだ。
他人のことを言えた義理ではない。
僕もかつて何十年間も投票に行ったことがなかった。
そんな、今まで全く政治にも、選挙にも関心がなかった「一般ピープル」である自分が、試しに「選挙事務所」に行ってみたらどうなるのか？　何を感じるのか？　という、その事務所の雰囲気や「空気感」を独断と偏見を元に文章にしてみたい。
これなら、僕にもできるかもしれない。
ただ、難しい政治論争を、それぞれの事務所に吹っかけるつもりなど、サラサラない。
そんなことを書きたいわけではない。
少しでも選挙に関心を持ってくれる人が、この文章をひとつの「エンターテイメント」として面白おかしく読んでいただければ幸いである。
そして、投票所に足を運んでくれる人が、一人でも増えてくれたら、こんなに嬉しいことはない。
こうして、矢も盾もたまらなくなった僕は、全くの思いつきで、このドン・キホーテ的な企画をスタートさせたのである。

僕はなぜ、選挙事務所に向かったのか？

●僕はなぜ、選挙事務所に向かったのか？
　～会社人間にとっての政治とは？～

7月10日は参議院議員選挙である。世の中は騒がしい。
もう、情報が多すぎて何を聞いて何を聞かないか？
どうやって判断したらいいのか？
僕にはさっぱりわからなかった。
（なお、このコラムは選挙事務所レポートとは直接関係がないので、お急ぎの方は、読み飛ばして頂いても結構です）
僕はかつて神戸に本社を構える会社に勤務する、ごく普通のサラリーマンであった。
神戸生まれ、神戸育ちの僕は、本社採用で正社員となり、名古屋工場の営業課に配属された。
朝８時出社し、夜１０時過ぎ、会社借り上げのマンション（家賃や光熱費さえ会社が負担してくれた）に帰る。そんな暮らしだった。寝ている時以外は仕事、という状況である。
会社の同僚とよく言ったものだ。
「平日は忙しく仕事する。土日はゆっくり仕事する」
ほんとうにそうだったのだ。事務処理がたまって、土日、自主的に会社の事務所に行き、書類の束を片付けないと、平日の仕事に支障をきたすのだ。
とうぜん、こんな風だから、目の前の仕事をこなしてゆくことしか眼中にない。
政治のことなど、もとより関心はなく、政治家なんぞ、
「やりたい奴にやらせておけ」と思っていた。
1990年に入社したその会社は福利厚生もよく、給料もそれなりに良かった。
貯金も増えた。ゴルフもやった。
在籍した５年間のあいだに、新車を２台買いかえた。どちらもキャッシュで払った。
それでも貯金通帳には「金」が余っていた。
テレビのニュースなどは見ていたが、全く政治にはなんの関心もない。
選挙にさえ行ったことがなかった。
別に選挙に行かなくても、自分の給料が減ることはない、と思っていた。
実際そうであった。
一度も選挙に行かなくても、驚くべきことに、僕の月給は年々、僅かずつ昇給していたのである。
今の若者から見れば、なんと恵まれた時代なのだ？！と非難を受けるかもしれない。
ただ、そのころの僕といえば、金の使い方さえ、さっぱりよくわからない、幼稚園生も同然だった。
風俗店に入り浸り、居酒屋で同僚と酒を飲み、上司の悪口ばかり言って、うさを晴らす。
人生なんてこんなもんだろうなぁ～。

きっと、こんな風にして俺の一生は終わるんだろうな、と思っていた。
波風さえ自分からたてなければ、何もかも順風満帆に行くように見えた。
だが、1995年、1月7日。
予期せぬことが起きた。
阪神淡路大震災である。
名古屋工場の僕たちは何もすることができなかった。その朝、上司は、僕たちに何も指示を与えなかった。
「普段どうりに仕事しろ」というだけだ。
冗談じゃない。
本社の社屋は阪神高速道路がぶっ倒れた、そのちょうど真北にあるのだ。夜勤の社員もいる。
社員の安否情報が何一つない。そんな中、僕はしかたなく、いつも通り2トントラック（これが営業車なのである）でお得意先廻りに出かけた。その途中、公衆電話を見つけた。
僕は電話ボックスに駆け込み、神戸の実家に電話をかけた。
奇跡的に電話は通じた。
実家は全員無事だった。姉の嫁ぎ先にも電話をかけた。
姉は名古屋から数百キロ離れた電話の向こうで、ただ、泣き崩れていた。
さて、その日の外回りの営業が終わり、僕は工場の事務所に帰ってきた。
事務所に入ったとき、
僕はこの時の光景を生涯忘れないだろう。
部屋の奥のデスクで、工場長と営業部長が向き合って座っていた。
二人とも前かがみになり、頭を抱え込んでいる。
そして工場長が、唸るようにつぶやいた。
「ああ～、部品の納期が～！！」
神戸と隣の明石市にある本社工場二つが壊滅し、得意先へ納める部品の納期の目処が立たないのだ。
そのシワ寄せが、名古屋工場にも直撃したのである。
社員の安否はまだ何も情報がない。
生きているのか、死んでいるのかわからない。
人の命より、部品の納期が大事。
「この会社にいては、僕はダメになる」
このときハッキリそうおもった。
初めて僕は、いままでの長い「夢うつつ」から、目が覚めたような気がした。

●僕が『天見谷行人』を名乗るまで

この１年後、僕は住宅業界へ転職するのだが、そのいきさつは拙著「たったひとりのアポロ１３」をお読みいただければ幸いである。
かつて消費税３％の時代があった。そして５％に消費税を上げたとき、最も被害を被った人たちがいる。
ぼくもその一人だった。
そのとき僕はすでに転職し、大手建材メーカーの住宅部門に勤務していた。
注文住宅を売る、営業マンである。
消費増税前の駆け込み需要が一段落すると、客はパッタリと途絶えた。
住宅展示場に閑古鳥が鳴いた。
家はさっぱり売れなくなった。
管理職からは
「死んでも売ってこい！！」という、虚しい檄（げき）が飛ぶばかり。
勤続数十年のベテラン営業マンでさえ「こんなことは経験したことがない」と嘆いた。
そして営業不振で僕は会社をクビになった。
やがて僕はうつ病を発症した。
一人で住んでいた3LDKを引き払い（贅沢でしょ）格安の学生向けワンルームマンションに引っ越した。
車も売払い、携帯電話さえ解約した。
貯金は底をつき、まさに絵に描いたように、坂を転げ落ちる「転落人生」を送ることになる。
ついにもう「これ以下の生活はない」という状況になったとき、僕はようやく世の中に対して目を見開くことができた、と今では思う。
政治や経済というものの「ミスリード」は、社会で最も弱いものが、最も被害を受けるのだ、ということを、わが身を持って実体験した。
「世の中を知る」ということ。自分の目で世の中を見つめるということ。
それはいろんなリスクを背負う。
僕のように「高い授業料」を払う場合もあるだろう。
だけど、会社の中のことだけ知っていればいい、後のことは全部、頬被りして、
「見ざる、言わざる、聴かざる」を決め込むのか？
それは「人として」どう生きるのか？　という問題でもある、と僕は思う。
その自分なりの回答として、僕は自らのペンネームで回答したつもりだ。
「転落人生」「これ以下の生活はない」
まさに谷底のような人生である。
そのような「谷」の底にあっても「天」を「見」あげて「人」として「行」く。

そうして僕は自分のペンネームを
「天見谷行人」（アマミヤユキト）に決めた。
長い紆余曲折の末にたどり着いた、僕の今までの「全人生」を象徴するペンネームである。
その「天見谷行人」が、この国の行方を大きく左右する、今回の参院選をレポートする。
いま、谷底にいる99%の人たちの気持ちに寄り添って、僕は記事を書くつもりだ。

取材初日7月4日　自民党

取材初日　7月4日（月）　晴れ　神戸の最高気温　33,1℃
①自由民主党　末松信介候補選挙事務所
末松信介候補HP
取材初日。
トップバッターは自由民主党。
末松信介候補の選挙事務所に向かった。
事務所は神戸の中心地。JR三ノ宮駅を出て、すぐ目の前にある。
大通りを隔てて東側には「そごう百貨店」がみえる。

事務所を構えるには、神戸としては「これ以上ない」というまさに、最高ランクの立地条件であろう。
「こんなところに取材に行くのかぁ～」
「敷居が高いなぁ～」

ああ、やめときゃよかった、なんてボヤいても、もう遅い。
天見谷行人、56年生きてきて、生まれて初めて、選挙事務所に足をふみ入れるのである。
やはり、緊張する。
何を質問しようか？　そういえば、そんなことすら考えてなかったな～、うわぁ～、どうしよう。
不安でいっぱいになる。
しかし、選挙事務所巡りをやるのは、もう決めたことだ。
それこそ、バンジージャンプを跳ぶような心境で、選挙事務所に飛び込んだ。
「こんにちわ」と挨拶して中に入ると、お揃いのポロシャツを着たスタッフ二人が、にこやかに出迎えてくれた。
二十代と思われる青年と、もう一人は中年の女性である。どちらも笑顔で応対してくれる。
「こちらの受付のみなさんは、ボランティアなんですか？」
「ええ、我々はそうですよ」
僕の方もスタッフさんの、にこやかな顔を見て、ちょっと緊張が解けてくる。
ここで取材の趣旨を説明した。
「いままで、選挙に行ったこともないし、政治にはなんの関心もなかった『ど素人』が、いきなり選挙事務所に行ってみたら”こんな感じだった”という、まあ、いってみれば、その場の空気っていうんですかね、そういう雰囲気を、僕の独断と偏見で申し訳ないんですが、文章を書いて、ルポにしてみたいんです」
すると、青年の方は「こいつ、ちょっと怪しいやつかも？」

と、やや警戒感を出していたが、中年女性の方は、相変わらずにこやかである。
「なんでも聞いてちょうだい」と肝が据わった感じ。
僕の方もちょっと、事務所内を観察する余裕が出てきた。

とにかく部屋中に「必勝！」「必勝！」のポスターだらけ。
見事に美しい胡蝶蘭が3鉢ほど並べられており、華やかさ満開。きっと値段高いんだろうな、この花。
いつも思うけど、こんな高価な花を買って、選挙事務所に贈る人や企業団体がある。
その一方、今日の子どもたちの食費をどうしようか、と途方に暮れている母子家庭もある。

事務所に入って左の壁には、見えるところすべて、天井までびっしりと「推薦状」というものが貼られている。
それを見て、中学校の「卒業証書」をおもいだした。
それが、何十枚も壁一面に貼ってあるような感じ、とご想像いただければよろしい。
この「推薦状」というのは、一体なんなのか？
なんの効力があるのか？
どうやら企業や団体が発行しているようだ。
それに目立つのは
「祈 必勝！」と書かれた白い大きなポスターである。
これがまた、何枚も、何枚も部屋中に貼ってある。
きっと、いろんなところに影響力があるんだろうな、と思う。

また、その影響力の大きさを誇示したい、という選挙陣営の気合も感じる。
事務所内を珍しそうに僕が眺めていると、ビジネススーツを着た二人の男性が事務所に入ってきて、親しげにスタッフに挨拶している。応援している企業・団体の人たちなのだろうか？
僕は、末松信介候補選挙事務所、その桁外れの資金力と影響力が醸し出す雰囲気の毒気に、ただただ圧倒され、もう気分的にノックアウト。
インタビューする気力さえ失いかけていた。
最後にひとつだけ、スタッフさんに質問。
「あのぅ～、いきなり、こんなこと聞いてなんですけど、ここの事務所の賃料って、おいくらなんですか？」
女性スタッフは「ちょっと待っててくださいね」と言って事務所の奥に入っていった。
奥には、選挙スタッフの幹部がいるのだろう。しばらくして女性が戻ってきた。
相変わらず、にこやかな顔で
「すいません、こちらでは、ちょっと分かりかねる、ということですので……」とのこと。
最後に
「事務所内の写真を撮ってもいいですか？」と聞くとOKを頂いた。
iPhoneで写真を撮り、お礼を言って事務所を出た。
ああ、勉強不足もほどがある、と深く反省。
さて、本日はもう１件、次の取材先に向かう。
末松信介候補選挙事務所開きのご案内
＊＊＊＊＊
②幸福実現党　みなと侑子候補選挙事務所
　みなと侑子公式ブログ
みなと侑子候補のブログを見て、JR元町駅すぐ近くに選挙事務所開きをした、という記事を見た。
末松信介候補選挙事務所のある、三ノ宮駅からはJRで一駅西側である。
先日から、耳の病気のため抗生物質を飲んでいる。
その影響か、体がだるい。しかも先月は周期的にやってくる鬱状態で、約3週間ほど引きこもっていた。
1日最大の遠出は歩いて３分のコンビニ。外出は1日一回程度。
それ以外は部屋に引きこもって、横になっている状態。
そのため、足が弱っている。
足を引きずるようにして三ノ宮から、元町まで１５分ほどかけて、ゆっくり歩く。
暑い。
この日の最高気温は　33,1℃である。
こんななか、立候補者たちは、選挙戦を駆けずり廻るのだ。
やはり、心身ともにタフでないと、選挙には立候補すらできないだろう。
さて、元町駅南東側に着いたが、みなと侑子候補選挙事務所はどこにも見当たらない。

元町駅西側まで足を引きずって歩く。
ない。
事務所がどこにも見当たらない。
そもそも、選挙事務所の住所が、ブログを見ても、書いていないのだ。
僕は呆れるほどに方向音痴である。
そのため、新しい場所へ行くには、いつもiPhoneにその住所を登録しておく。
そして、地図アプリを見ながら、まさに「人間カーナビ」状態で目的地までゆくのである。
しかし、みなと侑子候補の事務所住所がわからないので「人間カーナビ」も使えない。
暑い、足はひきずる。しんどい。
やむなく、本日の取材はこれにて終了。
とにかく帰って、明日の準備をしっかりやっておこう。

取材二日目　7月5日おおさか維新の会、民進党、公明党

取材二日目　7月5日（火）　晴れ　神戸の最高気温33,4℃
①おおさか維新の会　片山大介候補選挙事務所
　片山大介候補HP
昨日の反省も踏まえて、今日は効率的に取材することにした。
神戸市営地下鉄の県庁前駅を下車して、北へ向かって歩く。
昨日の夜、僕のiPhoneに、各候補者選挙事務所の住所を登録しておいた。
地図アプリをON。
さあ、これから「人間カーナビ」状態にして、片山候補の選挙事務所に向かう。
すると見えてきたのは、なんと自由民主党の大きな看板である。

その少し先にいった、別のビルの一階が、片山大介候補の選挙事務所である。
「こんにちわ、失礼しま～す」と事務所内に入る。
事務所入り口には胡蝶蘭が二つ。
こちらにも、部屋中に
「祈 必勝！」の張り紙がベタベタ貼ってある。
受付は中年男性一名のみ。
「はい、なんでしょうか？」とたずねられたので、各選挙事務所を取材して回っていることを話しする。
すると、受付の男性に、やや身構えるような緊張感が走ったのを僕は感じた。

「こちらの事務所のスタッフの皆さんは、ボランティアさんですか？」と質問。
「ええ、専属スタッフもいますが、ほとんどはボランティアですね。みんな手弁当でやってます」とのこと。
やがて、奥のパーテーションから、黒いTシャツを着た、がっちりした体格の男性が出てきた。
髪は短く刈り込んでいる。ラグビーか柔道でもやっていそうな、体育会系の雰囲気の人である。
この人が事務所の主要なスタッフのひとりであるらしいことは、なんとなく分かった。
昨日の末松事務所の推薦状が印象的だったが、この事務所にはそういったものは貼られていない。
「あのう、推薦状っていうのは、団体さんとか、個人の方でも出せるんですかね？」と問い合わせると
「いや、ウチは推薦状は一切もらってません！」とキッパリ言い放った。
そこで僕は
「実は昨日、末松さんの事務所を拝見してきたのですが、実にたくさんの推薦状が貼られてありまして……」
と末松氏のことを切り出すと、とたんに男性は不機嫌そうな顔をした。
「末松さんのことは知りませんけど、ウチは推薦状は一切いただかないんです」
そして真剣な眼差しで
「選挙は『貰うもの』ではなく、『勝ち取るもの』だ、ということです」
おおっ！！　これは見事な決めゼリフだなぁ〜。と感心する。
写真を撮っていいかと尋ねると、室内はご遠慮ください、とのこと。取材のお礼を言い、事務所の外観を撮影。

次の選挙事務所に向かう。

②　民進党　みずおか俊一候補選挙事務所

　みずおか俊一候補HP

次に向かったのは、民進党の、みずおか俊一氏の選挙事務所である。神戸市営地下鉄、県庁前駅、東出口から東へ450メートルほど行ったところに選挙事務所はある。

事務所に入って、出迎えてくれたのは、半袖ポロシャツを着た中年の女性である。この女性に取材許可を頂き、話を聞く。
この時、結婚式場で書かされるような「芳名帳」（ゲストブックともいうらしい）に署名を求められる。
特に問題ないと思い、住所、本名、及びペンネームを記入する。お昼時であったためか、事務所内は他に誰もいない様子である。
この事務所は、ボランティア５名ほどで運営されているそうだ。
僕が神戸市西区在住だと言うと、スタッフの女性は
「あら、うれしい！『みずおか』本人も、西区に住んでいるんですよ」と言ってくれる。
みずおか候補は、もともと兵庫県豊岡市生まれ、であるとのこと。事務所は東京、豊岡、そして神戸の3カ所。
この選挙事務所内を見ると、やはり各団体からの推薦状が貼られている。
それに、兵庫県知事の井戸氏、神戸市長の久元氏から贈られた、「必勝ポスター」が貼られてある。
兵庫県知事　井戸氏のプロフィール

神戸市長　久元氏のプロフィール
ここで、この女性から、
「このポスターは『檄』（げき）と言うんですよ。『檄を飛ばす』っていうでしょう。あの『檄』ですね」と教えてもらった。

そういえば、三島由紀夫が割腹自殺したときに、当時の自衛隊市ヶ谷駐屯地の建物に、垂れ幕を吊るして訴えたのが、確か「檄文」だったと記憶している。
三島由紀夫という、日本文学史上、綺羅星のような才能を持った「大スター作家」生涯最後の文章であったと記憶している。
まさにその檄文の『檄』なのだ。
必勝のポスターを見ながら「へぇ～」と、なんだか感慨にふけってしまった。
ここで最近の若い人たちの様子を聞いてみた。
そうすると女性は、
「みずおか候補のFacebookで”いいね”を押してくれた女子高生が『ぜひお手伝いしたい！』とわざわざこの選挙事務所まで、来てくれたんですよ」というエピソードを話してくれた。
今回の選挙は、若い層にも関心が広まっているのを感じている、とのことであった。
事務所に置いてあるパンフレット等をもらう。
この際「手提げ袋は要りますか？」と言ってくれた。
しかしなぁ～。
選挙事務所や、政党の名前の入った紙袋は、やばいよなぁ～と思った。
それで「いえいえ、お構いなく」と僕が言うと、女性は100円ショップで売っているような、チェック柄の紙袋を1つくれた。もちろん、政党名はない。
それにパンフレットを入れて持ち帰ることにした。
「紙袋貰ってしまったぞぉ～？」
「これって、いわゆる利益供与にならないのかなあ～？」などと妄想してみる。
そのうちに、白シャツ黒ズボンの男性スタッフ一名が帰ってきた。手には弁当をぶら下げている。
僕が受付の女性と選挙事務所について話をしていたら、男性が声をかけてくれた。
「ここは、今日は『選挙事務所』の扱いには、なっていないんですね。看板が移動しますのでね」
「はぁ、そうですか、ありがとうございます」と返事はしたものの、何のことやらよくわからない。
ここは、選挙事務所であって選挙事務所ではないらしいのだ。
今日は「後援会事務所」と言う扱いになるそうである。
「看板」てなんだろうか？　それも、よくわからない。

まったく、引っ込み思案で、臆病者の僕は、インタビュアーとして失格であるが、このよくわからない用語については、次の取材先で明らかとなる。

③　公明党　伊藤たかえ選挙事務所

伊藤たかえ候補HP

本日3件目の取材。

地下鉄三ノ宮駅東出口を北に向かって歩く。歩いて5分ほどで、伊藤たかえ候補の選挙事務所に到着。

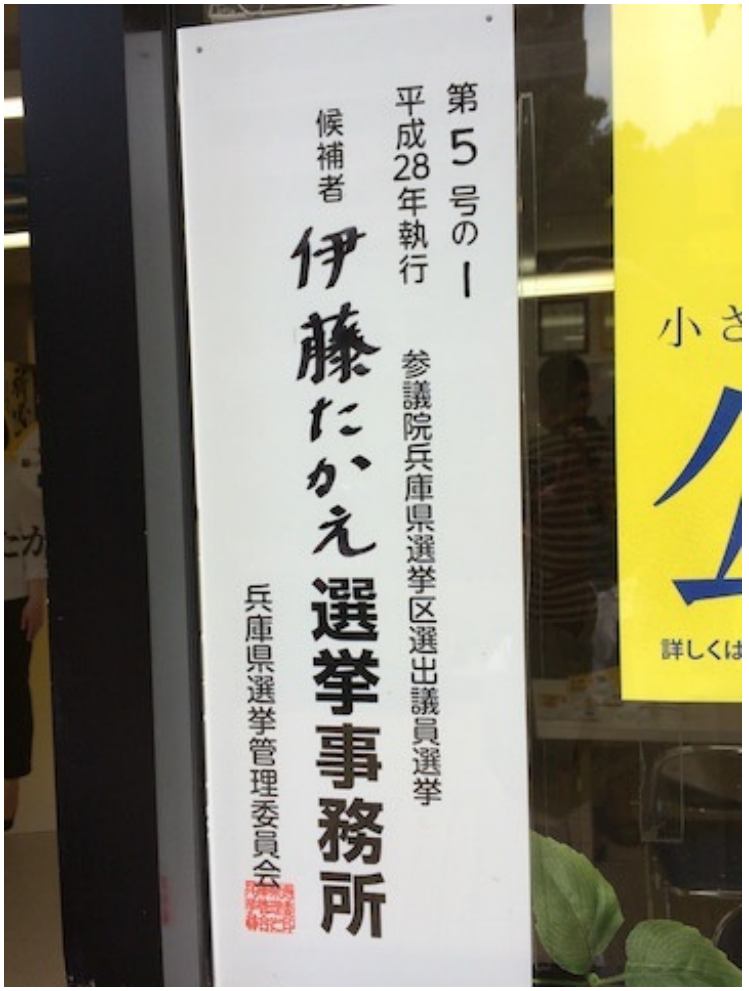
選挙事務所内に入ると、スーツを着た女性3人が

「いらっしゃいませー」と、にこやかにお出迎えしてくれた。

そして、お茶とおしぼりを進めてくれる。
おお、こんなこと、今までの取材で初めて。
取材の件はOK。
この選挙事務所の、副事務長さんが奥から出てこられた。
名刺を交換する。
まずは質問。
「こちらにいる皆さんは、全員、創価学会会員ですか？」
すると
「スタッフの8割は創価学会の会員です。ただし残りの2割ほどは、個人的に伊藤たかえを応援している人たちなんです」とのこと。
「まあ、立ち話しもなんですから、どうぞお掛けになってください」と椅子を勧められる。
テーブルを挟んで座って話を聞く。テーブルの上には、お茶菓子やキャンデーの入ったバスケットが置かれている。
こちらの取材の趣旨に好意を持ってくれたのか、副事務長さんは、終始、穏やかな笑みを見せている。
室内写真もオッケー。
これは今までの取材で初めての事。

副事務長さんは鹿児島出身の方である。

選挙事務所については、表に貼ってある「白いプラスチックのプレート」がとても重要なのだ、と教えてくれた。



また選挙事務所は兵庫県内に、3箇所、開設可能とのこと。
ただし「選挙事務所」と公言できるのは、このプレートを貼り付けている所だけである。
だからプレートを、それこそ「後生大事に」抱えて、県内の事務所を移動するのだそうである。
へぇ〜、そうなんだ。
事務所経費について質問してみた。
かかった経費については、2週間後に選挙管理委員会に収支報告書を出す、とのこと。
今回の投票は7月10日に行われるので、7月25日（月）には、県庁の選挙管理委員会で、選挙事務所の経費は閲覧できると教えてくれた。
その費用はどこの財布から出ているのか？
この際だ。
突っ込んで聞いてみる。
それについての答えは、
「公明党本部からの場合もあるし、また資金カンパなどの場合もあります。政党ごとにお金の出所は違うでしょうね」との事。
末松信介候補の事務所へ、取材に行ったことをお話しすると、
副事務長さんは、
「わたしね、かつて末松さんのお仕事も、手伝っていたことがあるんですよ」
とびっくり発言。
ここでちょっとした時事問題に触れてみる。
例えば貧困で困っている方、生活保護の申請の仕方すら知らないお年寄り、シングルマザーの方

など、生活弱者も増えているように思う。
そういった問題についてはどのようにお考えか？　と聞いてみた。
「そういう問題こそ、公明党、創価学会が最も取り組んでいるのです」とおっしゃる。
創価学会では、横のネットワーク、横のつながりがとても強いとのこと。
常に連絡を取り合っているから、困っている人、弱っている人を見つければ、すぐに「助け舟を出す」という仕組みができている、とのことである。
「それこそが、創価学会が創価学会である所以です」と、ちょっと誇らしげであった。
ここで、改めて事務所内を見る。
ここにも必勝のポスターが貼ってある。

あれ？　兵庫県知事、神戸市長からの「祈　必勝！」の「檄」ポスターが貼ってあるぞ。
民進党と公明党は、いまライバル関係なのでは？
「実は先ほど、民進党さんに取材に行ってきたんですよ。そこにも兵庫県知事と、神戸市長からの必勝ポスターが貼ってありましたけど？　これってどういうことなんですか？」
「ははは、そうですか、民進党さんに行かれましたか。いえね、兵庫県知事さんと神戸市長さんは、自民党、公明党、民進党の三つを応援しているんですよ」
う～む、これが選挙や政治の力学というヤツなのかなぁ～、僕にはよくわからないなぁ～、と思った。
最後に今の選挙区制度についてどう思うか、と聞いてみた。
「以前は中選挙区でしたねぇ～。その方が民意を反映しやすい、ということもあったでしょう。しかし多くの少数政党が乱立しすぎた、という弊害もありました。

そして＊＊チルドレンといった候補がたくさん当選して、次の選挙には、あっというまに落選。いなくなりました。
まあ、今の小選挙区では、あなたもおっしゃるとおり『勝ったか、負けたか』の二つに一つです。それぞれの制度に、それぞれの功罪がある、と言ったところでしょうかね」と無難な返答。さすがである。
では、さらに突っ込んで
「いっそ、完全比例代表のみにする、というのはどう思いますか？」と質問。
それについては「なんともいえませんなぁ～」とさすがに言葉を濁した。
この事務所では結局30分以上、話し込んでしまった。
今までで最も長い取材となった。
そして多くの選挙に関する基礎知識を教えてくれた。
快く取材に応じてくれた、副事務長さん、スタッフの皆さんに御礼申し上げたい。
以上で本日の取材終了。

取材三日目 7月６日　選挙管理委員会　日本共産党

取材三日目　7月６日（水）　晴れ　神戸の最高気温30,9℃

本日は午前中に兵庫県庁に向かう。
選挙管理委員会へ取材に出かけた。
幸福実現党の選挙事務所に行きたいのだが、住所がさっぱりわからない。
ブログを見ても住所は記載されていない。
「きっと選管に聞きに行けばわかるだろう」とおもったのである。
神戸市営地下鉄「県庁前」駅で降りて、庁舎へ入る。
入口の案内係りの中年女性に「選挙管理委員会はどこですか？」と尋ねた。
「ちょっと待ってくださいね」
女性はそういうと、庁舎の見取り図を探し始めた。
「はて、どこだったかしらねぇ」という、つぶやきが聞こえてきそうな雰囲気だった。
僕は内心「オイオイ、来週は投票日だぞ、県庁がこれでいいのか？」とおもった。
ちなみに外には「選挙に行きましょう」と呼びかけるノボリがいくつも立っている。
写真に写っている青いノボリがそれである。

ようやく案内係りの女性は選管事務所をみつけた。
「２号館の9階です」とのこと。
やれやれ、隣のビルである。

又、足を引きずり、ゆっくり歩いて２号館へ向かう。エレベーターで9階に上がった。
無機質で殺風景な床、壁、天井。味もそっけもない、まさに「ザ・お役所」という感じの廊下の向こう側に、選挙管理事務所があった。ドアは開いていた。
「こんにちわ、お邪魔しま～す」と挨拶して、中に入る。
対応してくれたのは二十代後半とおぼしき、若い感じの、メガネをかけた男性職員。
「あのう、各候補者の選挙事務所の住所って、こちらで教えていただけますか？」
と質問してみた。
すると男性職員は、ちょっと困ったような顔をした。
「う～ん、ええっとですねぇ～、ちょっとねぇ～、どういうご趣旨ですか？」
そこで今、取材活動をして回っていることを説明。
「立ち話もなんですから、こちらへどうぞ」と別室へ通された。
決して贅沢ではない、量販店で買ってきたような、安物のソファに座って話をすることになった。
まず、驚かされたのは、選挙管理委員会では
「候補者の選挙事務所の住所は公表できない」
ということであった。
えっ？　マジ？！　である。
住所さえ教えてくれないの？

ここで、気を取り直して、このときの会話内容をQ&A方式で簡単に書く。

Q　選挙管理事務所へ立候補者が届けるべき内容は？
A　最大で23項目の届け出が必要である。（届けなくていい項目も存在する）

Q　選挙事務所は最大何カ所開設可能か？
A　兵庫県の場合3カ所までである。

Q　一般市民が閲覧可能な資料は？
A　届け出された23項目の中の「収支報告書」だけである。

Q　それはいつから閲覧可能か？
A　選挙期日（投票日のことをこう呼びます）の15日後から閲覧可能。

Q　すべての候補者の収支報告書は、一度に全部を見ることができるのか？
A　資料は膨大な量になるので、一度に一件づつ申請してもらって、閲覧するのが現実的。

また、これ以外にも、

●選挙事務所を表示する白いプラスチックの板、あれを「標札」（ひょうさつ）と呼ぶ。
●最大３カ所の事務所を持った場合、その「標札」を貼った事務所が「選挙事務所」と呼ばれ、標札を貼っていない他の二つは「後援会事務所」という扱いになる。
●候補者は選挙活動のため、JR、私鉄、地下鉄、バスを合計15回使用できる。その費用は後払い制である。
（候補者は、まずは自腹で運賃を支払うのだ）
●各候補の選挙事務所の住所については、各政党に問い合わせてほしい。
　とのことであった。

このときの質疑のやり取り中、担当職員は、選挙関連の分厚い法令集を手に持っていた。それを何度もめくり、条文を探しては、ふうふういいながら、懸命に説明してくれた。
やはり、僕のような「ど素人」に、専門的な選挙用語をわかりやすく解説することが、どんなに難しい事か、がわかる。
丁寧に対応してくれた職員の誠実さは、確実にぼくに伝わってきた。
篤く感謝、御礼申し上げたい。
と共に、情報公開という面で、23項目の届け出のうち、公開できるのは「たった1項目」
選挙に関する「収支報告」だけ、ということに関しては、一市民として、なんとも納得いかない気がする。
さらには選挙事務所の住所さえ開示しない政党が実在すること。
選管に行っても、その住所は教えてくれないこと。
これらは「政党、役所にとっての常識」は、市民にとって「非常識」というほかない。
是非とも改善をお願いしたい。
＊＊＊＊＊
次は、本日、一件だけ選挙事務所取材を行う。

①日本共産党　金田峰生候補選挙事務所
　金田峰生候補HP
金田候補の選挙事務所は、「日本共産党兵庫県委員会」に設置されている。
選挙事務所は、兵庫県神戸市兵庫区、新開地商店街の中にある。
事務所の横は、おなじみ「餃子の王将」である。
なんとも庶民的な感じ。
新開地というところは、東京で例えるならば、新橋のガード下のような感じ、とでも言おうか。
なお、ちかくには福原の風俗店もある、そういう場所である。
もとより、新開地は古くから神戸の歓楽街であった。
映画評論家の淀川長治さんは、神戸市兵庫区のお生まれである。
この新開地の映画館で、淀川さんは、子供の頃から胸をときめかせて映画を見ていたことであろう。

さて「こんにちわ」と挨拶して、選挙事務所内に入る。
「はい、いらっしゃい」と出迎えてくれたのは、年の頃60代から70代前半とおぼしき、白髪、痩せ型の男性である。背筋はシャキッとしている。
取材趣旨を説明すると、快く承諾してくれた。

ソファセットに向かい合って座り、お話を伺う。
ソファはずいぶん使い込んだ布製である。
午前中の選挙管理委員会で座ったソファを、さらに使い込んだ感じだ。
入り口に胡蝶蘭がひと鉢だけある。
「ずいぶん庶民的なところに、事務所がありますね」と尋ねると、
「もう、ここの事務所は長く使ってますね。以前は『赤のれん』の店舗だったんですよ」とのこと。
　室内には、やはり「祈 必勝！」の「檄」ポスターが貼られ、金田候補のポスターが何枚も貼られている。
よく見ると、宝塚市長　中川智子氏からの「祈 必勝！」ポスターが、一枚貼ってあった。

各選挙事務所を取材していることを告げ、推薦状のことを話しした。
「すごい数の推薦状をもらっている方もいましたねぇ～」と話を振ってみると、
「ええ、うちも貰っています。あなたの後ろに貼ってあるでしょう、それですよ」
右を振り返ると、壁には、確かに推薦状が貼ってある。鍼灸師、マッサージ協会の団体からの推薦状が２枚あった。
選挙活動の手応えはどうか？　と質問してみた。
「すごい、熱気が感じられますよ。若いひとが、何人も来てくれてね。なんでもいいから、もう、何か、手伝わせてくれ！　と言ってくれています。ありがたいことです」
「東京では三宅洋平さんが、YouTubeで、大変な人気になっているようですね」と話すと、
「ウチの方でも動画配信をやっています。ライブで配信してるんですよ」とのことだった。若いひとを中心に閲覧されているそうだ。
今回の取材を通して、できる限り、政策論争を選挙事務所相手に吹っかけない、ということを信条としてきた。
しかし、ここに来て僕は
「それでも、正直なところ、安保法制といい、GPIFの５兆円の損失といい、もう一体、どうかしてるんじゃないか？　と僕は思っちゃうんですが」とボヤいてしまった。
すると、男性も
「安保法制はね、あれはやってはいけないことですよ。本当に今この時期、日本は立憲国家である、という大前提が崩されようとしているんです。大問題です」
さて、神戸生まれ神戸育ちの僕が、神戸人の気質と選挙の関係について、質問してみた。

「神戸っ子、というのは割と「サラリ」としているというか、クールさを気取っているというか、あんまり「熱気」というのを表に出さないところがありますよね。兵庫県の他の地域との「温度差」みたいなものは感じませんか？」
この質問には男性も苦笑していた。
どうも確かにそういう感じもあるらしい。
「しかしね、神戸は共産党にとって”最重要拠点”と位置付けられているんです。だから、すでに志位委員長も二度、神戸に応援に来られてますよ。神戸は大切な街です」
最後にあの「阪神淡路大震災」のことも話題に上った。
かつてのテレビニュースなどで覚えておられる方も多いだろう。
街が丸ごと焼け落ちてしまった長田区は、兵庫区の西隣りなのである。
今、長田の街並みは再開発が進み、巨大ビル群が立ち並ぶ。
表面上は見事に復興したかに見える。
男性は語る「しかしねぇ～、復興住宅から退去を迫られている、お年寄りの問題などもありますね。
（その関連記事はこちら）
長田に住んでいるみなさんにとって、復興はこれで良かったのだろうか？　という想いもあるでしょうね」
また、災害ボランティア活動もやっているとのこと。
福島などへ復興支援で「神戸から来ました」というと、地元の方達が、特別に喜んで歓迎してくれる、という。
「被災された方達、被災した地域の人たちにとって『神戸』という街は特別なんです。復興のシンボルなんですよ」と男性は語る。
　そうかぁ～、「神戸ブランド」はファッションや、港町や、牛肉や、神戸ウォーター、だけでなく『復興の街 KOBE』という、ブランドが既に確立しているのだ。
そのブランドに恥じないような、本当の、市民の心に寄り添った復興を行政はやってほしいものである。
そんなお話を聞かせていただいて、お礼を言い、事務所を後にした。
本日の取材はこれで終了。あとは戻って原稿作成。

取材四日目 7月7日　日本のこころを大切にする党

取材四日目 7月7日　晴れ　神戸の最高気温　32℃
本日は午前中から午後にかけて原稿作成。
夕方より一件取材。
①日本のこころを大切にする党　しもいえ淳の介候補
しもいえ淳の介候補Facebook
さて「しもいえ淳の介」候補は兵庫県内に選挙事務所を設置していない。
大阪堺市にある、西村真吾氏の事務所を選挙事務所として選管に登録しているらしい。
以下、Facebookからの引用である。
＊＊＊＊＊
しもいえ 淳の介
6月25日 11:31 ·
【活動】
選対会議のため、私の選挙事務所としても選管に届け出をしている大阪の西村真吾先生の事務所に来ております。
午後１４時からは、「反対、天皇陵の世界遺産登録」シンポジュウムでご挨拶させていただく予定です。不勉強な部分もございますので、しっかりと諸先生方のお話を伺おうと思います。
＊＊＊＊＊
ちなみに西村真吾氏のHPはこちら
＊＊＊＊＊
さて、取材をどうするかだ。とりあえず、アポを取ってみようと、Facebookのメッセンジャーで、僕の方から「しもいえ淳の介」候補に直接、メールを送ってみた。その内容は以下のとおり。
＊＊＊＊＊
「はじめまして、フリーライターの「アマミヤユキト」ともうします。神戸市西区在住です。この度、「選挙事務所に行ってみた！！」（仮題）という電子書籍を作ります。自分なりに取材をして記事をブログやフェイスブック、電子書籍に発表する予定です。目的は「今まで全く選挙に関心がなかった一般人が、いきなりアポなしで、選挙事務所に行ってみたら”こんな感じだった”という、いわばその事務所の雰囲気を文章にしてみたいのです。つきましては、街頭演説を拝聴した後で、五分でも10分でも結構です。街頭で取材をさせていただけないでしょうか？　選挙事務所は大阪にあるとHPで確認させていただきました。水曜日は県北部での活動、ということで、明後日木曜日の予定はいかがでしょうか？
なお、すでに自民党、民進党、公明党、おおさか維新の会、は取材すみです。
お忙しいとは存じますが、ご協力いただければ幸いです」
このあと、
電話番号とメールを相手側に知らせた。
アマミヤユキト　090-××××-××××

yukitoamamiya@gmail,com

ところが、電話番号を間違えてしまったことに気がつき、改めて、以下のとおりメールを送った。

「アマミヤユキトです。電話番号がまちがっておりました。失礼しました。正しくは090ー××××-××××です。訂正してお詫び申し上げます」

さて、7月7日現在「しもいえ淳の介」候補からは、なんの返事もない。
そこでFacebookに公開されている彼の行動予定を見てみる。
＊＊＊＊＊
【活動予定】
7/7（木）
09:00　イオン洲本SC付近with中山恭子代表
　以降は淡路島各所でスポット街頭演説
17:00　明石 魚の棚商店街
喉がかなり荒れてしまっております。お聞き苦しい点があるかと存じますが、ご理解とご支援賜りますようお願い申し上げます。
なお、本日21:30からのサンテレビさんの「NEWS PORT」内で、私しもいえ淳の介の密着取材の様子がオンエア予定です。
＊＊＊＊＊
おお、これはちょうどいい！　明石、魚の棚商店街は、僕の自宅からスクーターで15分程度。
さっそく取材に出かけた。
僕が到着した時刻は17時15分。商店街は早くも仕舞い支度をしている。ここは新鮮な魚が手に入る市場として市民に親しまれている。

商店街を一往復したが「しもいえ淳の介」らしき人が街頭演説している様子はない。
ちょうど、商店街の中央に休憩所がある。ここで待機する。

休憩所の写真にある通り、17時48分まで粘ってみた。

すると、休憩所の受付の女性から

「ここ６時に閉めますので」とのこと。
そこで、女性に質問。
「あのう～、こちらに参議院候補の、しもいえ淳の介さん、来られてませんか？」
「いえ、知りませんけど」
仕方なく、休憩所を出て再度、商店街をぶらぶら歩く。
ここでふと考える。
「もし僕が立候補者だったら、どこで街頭演説するだろう？」
魚の棚商店街はJR明石駅から近い。
しかも今は夕方のラッシュ時間。帰宅客は大勢いる。
いつ演説するの？
「今でしょ？！　明石駅前でしょ！」
と思い立ち、JR明石駅前に行く。

駅の南側、北側、東側、西側すべて歩いたが、誰も街頭演説している様子はなかった。
なんとも情けない。しょうがない、原稿も書かねばならない。時間がない。無念の撤退。スクーターで自宅へ戻る。
午後7時51分、下記の記事を「しもいえ淳の介」氏のFacebookにて確認。
＊＊＊＊＊
【活動報告】
7/7 JR明石駅北口にて街頭演説をさせていただきました。戦争法反対のプラカードを持った方々が数名おられましたが、そのまま演説致しました。一人でも多くの皆様に我々の「日本のこころ」

のことばが届くことを願います。
＊＊＊＊＊
「1時間前に更新」とされている。
となると、午後6時51分前までに、街頭演説を実施したようである。
僕は午後6時40分ぐらいまで明石駅付近にいたが、まさに、すれ違いだったのだ。
残念無念。
ならば、大阪、堺にある西村真悟氏の事務所に取材に行く、という手段もある。
しかしである。
Yahoo! の路線情報で検索したところ、僕の自宅の最寄駅であるJR明石駅から、西村氏の事務所がある、堺市中区深井中町まで、最も安くて往復2,920円かかる。
僕のほぼ3日分の食費である。
3日間絶食してまで取材をするか？
う～む、これは僕の生存権の問題だな～、などと妄想してみる。
僕にも一応、日本国民としての「基本的人権」というやつがあり、生存権は今の所は認められているはずだ。
メシも食わないで雑文を書く、そこまでの義務はないだろうなぁ～。
そうなりゃ、これはもう「苦役」に分類されるべき問題である。
日本国憲法では「苦役」は強要されない、と確か書いてあったはずである。
（調べてみたら第18条が苦役からの自由についての条文）
まあ、そのうち改憲されてしまったら、これもどうなるかは分からない。
ということで僕は、取材よりも「飯を食うこと」を優先した。
以上、この日の出来事と雑感である。

取材五日目（最終日）幸福実現党

取材五日目（最終日）　**7**月８日（金）　曇り時々雨　神戸の最高気温　29℃
①幸福実現党　みなと侑子候補選挙事務所
[みなと侑子候補公式ブログ]
朝の10時5分に選挙事務所に到着。
JR元町駅、東北角のビル一階が事務所になっている。
場所は、ネットで調べた。
事務所開きの際の、公式ブログ記事の写真を参考にした。
バックに写り込んでいた写真館の名前から、グーグルで検索したのである。
前回来た時、僕は元町駅の南側ばかり探していた。どうりで見つからなかったはずだ。さて、現地に到着したものの、肝心の選挙事務所がまだ開いてない。
シャッターは閉まったままだ。
しょうがないので、元町の大丸百貨店まで、足を引きずって歩く。
ここの9階レストラン街のベンチスペースで１時間、原稿書きをする。
僕だって、暇ではないのだ。
すでに神戸、元町の各商店街は営業を開始している。
みんな、それぞれに働いているのだ。
「働くものの代弁者」という意識を持っていることが、「政治家」という「職業」を志す者の、資質の一つである、と僕は思う。
そういう意味からいっても、午前10時5分の段階で、スタッフはおろか、選挙事務所はシャッターを閉めている、という立候補者の姿勢は如何なものか？　と疑問を呈せざるをえない。
11時45分、大丸百貨店を出て、元町商店街に向かう。

この商店街北側、元町駅のすぐ向かいに、僕のお気に入りのサイゼリアがある。
入り口はこんな感じ。

びっくりでしょ？　とてもこの二階にファミレスがあるとは思えない。瀟洒な雰囲気。
実際、店内に入っても、他のサイゼリア店舗と違い、ここはかなり静かなのだ。
原稿書きにはもってこいの場所である。
五百円のランチとドリンクバーを注文し、ここで原稿作成の続きをやる。
本日は夕方には明石に戻り、クリニックを２件ハシゴしなければならない。
そのため元町には午後３時半まで滞在することにする。
選挙事務所には、午後三時に行けばいいだろう。
その段階で、もし万が一、まだシャッターが閉まっていたら……。
それでも継続して取材をする熱意と執念など、僕は持ち合わせていない。
午後３時１０分
僕は選挙事務所に向かった。事務所は開いていた。
ラッキー！　取材できる。
不動産屋さんのドアのような、ちょっと重い開き戸を、ぐいっと開ける。
「こんにちわ」と声をかけながら事務所内に入った。

出迎えてくれたのはネービーブルーの地に、ドット柄のシャツを着て、ハンチング帽をかぶった男性である。

取材趣旨を説明すると、快く承諾してくれた。

「今日、僕、こちらへ10時5分に、一度お伺いしたんですが、シャッターが閉まってましたね」と言うと、男性は

「すいません、申し訳ありません、スタッフ当番の都合が急につかなくなりまして、今日は12時過ぎに、開けました」

普段は午前11時には開けているとの事。

ここで、男性のプロフィールを聞いてみた。

37歳のボランティアさんで、普段は自営業をしているそうである。大川隆法氏主宰の「幸福の科学」会員さんである。

幸福実現党は立党して７年、2009年から政党活動をしているそうだ。

ここでいきなり、一番気になっている事を聞いてみた。

「幸福実現党さんは、バックボーンが幸福の科学さんですよね。宗教法人が政党を持つということで、いままでの選挙活動などで、嫌がらせだとか、誹謗中傷はございませんでしたか？」

この僕の質問を聞いた途端、男性は大きく首を振り、頷いた。

何を今更、という感じである。

「いや、もうねぇ～、本当にねぇ～、そりゃぁ～、とんでもなかったですよ。嫌がらせや、無言電話、貼ったポスターは、候補者の顔のところだけ破られる。貼り直すとまた、わざわざ、顔の部分だけ”ビリビリッ”って破られているんです」

「ええっ？！　そりぁ、悪質ですね」

「それに、最初は新聞などのメディアも「キワモノ」扱いで、全く取り上げてくれないんです。政党活動を続けるというのは、ものすごく費用もかかるんですね。いま、7年間活動を続けてきて、ようやくメディアも”どうやら幸福実現党は『マジ』でやってる政党らしい”と認めてくれて、やっとここまでたどり着いた、という感じです」

お話を続けていると、そこへ淡いグレーのフォーマルスーツを着た、女性幹部が出先から帰ってきた。
　女性の左手首には、腕時計と、なにやら白っぽいつや消しパールのようなブレスレットをつけている。はて、幸福の科学さんで販売しているグッズなのかな、などと思う。
男性と、この女性幹部二人揃って、お話を続ける。
まずは、選挙事務所の住所が表示されていない件について。
「申し訳ありません、事務所開き以来、ドタバタでここまで来てしまって。確かにおっしゃる通り、以前にも二、三人の女性の方が、住所がわからなくて迷った、というお話はいただいたことがあります。選管さん公認の選挙用ビラには、みなと侑子選挙事務所の住所はハッキリ明示されております」といって、ビラを見せてくれた。たしかにビラの下に住所はあった。
事務所を故意に隠そうという意思はなかったことを理解した。

次に、今回の選挙の手応えを聞いてみた。女性幹部が答える。
「それはもう、今までと明らかにちがいます。皆さん、熱気が感じられますね。先日も、ある飲食店経営の社長さんが、若い社員に投票に行ったことがあるか？と聞いたそうなんです。ほとんどの社員さんが行ってない。そこでこの社長さん、若い社員さんたち何人も引率されて、私たち幸福実現党の事務所をはじめ、各選挙事務所さんを回られて、若い人たちに、とにかく選挙に行ってほしいと、自主的に活動されているんです」
他にも、ツイッターなどのSNSで、若い人がどんどん選挙に関する情報を拡散してくれている、とのこと。

「ネット選挙の意味があったということでしょう」と好意的な発言である。
その「ネット選挙」と言う単語が、そもそも僕にはわからない。
「三年前、2013年からネット選挙が解禁されまして、ネット上での選挙活動ができるようになったんです。幸福実現党も、1日1万人ほどの人が、HPや候補者ブログをみてくれているんですよ」
（ネット選挙についての参考記事）
先ほど男性に聞いた嫌がらせの件については、
「こんなこともありました。わが党としては、ちゃんと公職選挙法を守った活動をしているもかかわらず、ある有力な政党の大物議員先生から、直接電話がかかってきたことがあります。
”アンタところのアレ、選挙違反に当たるんじゃないのかね？”とちょっとした圧力をかけてきたんですね。本当に心ない誹謗中傷などは日常茶飯事です」
話しているうちに、僕の方も変な、わだかまりも溶けて、打ち解けた雰囲気になってきた。そこでちょっとソフトな質問。
「みなと候補さんは、女性立候補者ということで、マスコミからも注目度は高いんじゃないですか？」
「みなとは、兵庫選挙区で一番若い33歳の女性立候補者です。その点、若い世代にアピールできると思っています。ただ、メディアの取材では、ファッションや女性議員ならではの、お化粧のことなど、聞かれることもあります」
ここで苦笑しながら
「まあ、正直、他にもっと報道すべきことあるでしょう？　と言いたくなることもありますよ」
と言う返答だった。
たしかに、ここ連日、30℃を超える暑さの中、僕も神戸市内を取材するだけで、もうへとへとになってしまった。
ましてや、兵庫県は、全国で唯一、北は日本海側、南は瀬戸内海に接している。
日本列島を、まさに南北に縦断する選挙区なのだ。
「これを18日間の選挙期間中、ずっと移動するんです」
なるほど、こりゃ大変だ。汗だくになりながら、なおかつ「お化粧崩れ」にも、女性候補は気を使わなければならない。
ところで、みなと侑子候補選挙事務所には、例の「必勝！」のポスターはいくつも貼ってあるが、推薦状もなければ、あの高価な胡蝶蘭はひとつもない。

男性スタッフが「あの必勝のポスターは『タメガキ』といいます。候補の『為に』必勝を祈る、という意味からです」

あれ、他の事務所では『ゲキ』といっていたなぁ～、とつぶやくと

男性スタッフは逆に

「ええっ、そうなんですか？『檄』なんですかぁ～、知らなかったなぁ～」

ここで女性幹部が

「私たちの方が、他の政党さんの事務所、見てみたいわよねぇ～」と笑って話された。

「アマミヤさん、他の事務所さん、廻られたんでしょ？　どんな感じでした？」

と逆質問されてしまった。まあ、他党の情報をリークすることはできないので、党名は伏せて

「ある政党さんは、それこそ高価そうな胡蝶蘭がいくつもありましたよ」と話すと、女性幹部は

「あの、お花ねぇ～、選挙開きの時に頂くんですよね。そこから投票日まで、およそ一ヶ月以上のあいだ、絶対に花を枯らしてはいけないそうなんです。特に大手企業の社長さんから贈られたお花なんか、もし枯らしてしまったら、それこそ、その選挙事務所の大失態になるので、とても大切にお手入れするそうですよ」と言う情報を頂いた。

なるほど、花を贈る方も、贈られる方も気を使うんだなぁ～、それにしても無駄なお金と労力の使い方だなぁ～、とつくづくおもう。

最後にちょっとシビアな質問をぶつける。

「僕はいつも不思議に思うんですけど、国会で法案を成立させる時、国会議員さんたちが投票しますね。あの時『党議拘束』というやつがかかるじゃないですか？　アレってどうおもいます？」

（党議拘束について）
それについて女性幹部からは
「幸福実現党については、各候補の掲げる政策に、当然地域の問題や、また候補者自身のポリシーなど、個人差はあるものの、概ね党本部と各候補の提言に極端な違いはありません。ほぼ一枚岩といえるでしょう。ところが、今回の野党の共闘をみると、まったく政策や理念の違う党が、手を結んでいる。これは如何なものか？　と思いますね」
また政権与党である自民党内についても
「自民党さんの内部でも、それこそ『右』の方もいれば『左』のかたもいらっしゃる。有権者の皆さんは、それぞれの選挙区で、その立候補者の「人柄」をみて判断される場合が多いと思うんです。その人を見て一票を入れたのに「党議拘束」がかかってしまったために、その議員さん個人とは、まったく反対の政策、立法に賛成させられてしまう現状がありますね」
話しは、さらにデリケートな問題になる。
「たとえば沖縄選挙区では「基地反対！！」と言わないと『票がもらえない』のです。だから、東京の党本部の方針とは違う姿勢を、各候補は”装わなければ”なりません。それもおかしなことですよね」
最後に女性幹部は「各政党、議員さん、いろんな意見をお持ちです。大切なのは『逃げずに議論してほしい』『逃げずに闘ってほしい』ということです」
ふむふむ、これは今日の「決めゼリフだなぁ～」
そう思いながら、ご意見を拝聴する。
僕の個人的見解としては「党議拘束」みたいなくだらないこと、それ自体「ゲスの極み」であり「ナンセンスの極み」と思っている。
だが、それはここではあえて発言しなかった。
思えば、予想外に、ずいぶん話し込んでしまった。
時計を見ると午後４時２０分である。
１時間１０分話し込んだことになる。
最後に女性幹部と名刺を交換する。
名刺には選挙区の支部長さんと書いてあった。
写真撮影もOK。

宗教色を出すこともなく、実にフレンドリーな姿勢で、取材に応じてくれたことに感謝したい。これにて全取材終了！　あとは原稿書きが待っている。ああ～っ！　歯を食いしばって原稿を書かねば！！

取材を終えての幾つかの雑感

さて、アポなし突撃取材レポート、お楽しみいただけたであろうか？
取材を終えてわかったことが一つだけある。
「選挙事務所は、安心して訪問出来る」ということである。
まあ、「選挙期間中は」と但し書きをつけておいてもいい。
僕は、幾つかの選挙事務所で名刺交換をし、自分の住所も教えた。
選挙が終わった後で、僕の自宅にどんな事態が発生するのか？
何事も起こらないのか？
それも、逆に楽しみである。
さて……
今回の取材、および、原稿作成に関して、留意した点は
①兵庫選挙区立候補者を全て取り上げること
②出来うる限り、政治的中立性を保つこと
③各政党、および立候補者への、誹謗中傷は絶対にしないこと
以上を心がけたつもりである。
ただ、残念ながら、こちらの意に反して、取材が叶わなかった候補者の方もいる。それは僕の取材力不足のせいでもあり、候補者に責任はない。
記事を読んでいただいて分かる通り、僕には取材対象に対する
「専門知識」も、取材対象への「執念」も「熱意」もない。
読者の中には
「アマミヤ、お前、そんなんで、よく「物書き」やってられるな？！」
とお叱りをいただくこともあるだろう。
それは覚悟の上である。
それでも僕は「熱意」をもって「執念深く」立候補者を追いかける、なんてことは「敢えて」しなかった。
なぜそうしたのか。
僕なりの理由がある。
この企画は
「選挙に一度も行ったことがない、政治オンチの『ど素人』が選挙事務所に行ってみたら、こうなった」
というレポートなのだ。
逆に、政治のプロフェッショナル、プロの政治ジャーナリストであっては「絶対ダメ」成り立たない企画なのである。
ところで、前回の参議院選挙の投票率は52%である。
48%の人たち、有権者のほぼ半数近くが、選挙に行かなかったのである。
その理由はなんだろう？

政治に関心がない、面倒くさい。まあ、それも結構である。
ぼくはその「48%の人たち」の代表者の一人になりきって、自分勝手に、今回の企画を立案、実行した。
その人たちは、政治や選挙にたいして「熱意」も「執念」もある人たちとは言い難い。別に僕はその人たちを責めている訳ではない。
日本の国政選挙というのは「48%が投票しない状況」で行われている、という現実がここにあるのだ、ということを言いたいのである。
簡単な算数をやってみよう。
投票した人52%に「過半数を示す数字」であるところの「0,51」を掛け算してみよう。
答えは「0,2652」である。
四捨五入すると27%
たった27%の支持をもって、この国の指導者が決まる、ということだ。
反対に言えば、のこりの73％は、特に今の政権を進んで支持した訳ではない、ということになる。
本当に、こんなことでいいの？　とふと思う。
そんな問題意識は、この取材を進めていくうちに、僕の中で、どんどん大きくなっていった。
取材を進めていく中で、特に感じたことがある。
①どの政党の、選挙事務所の人たちも、大変親切であったこと。
②選挙への関心をもっと高めたいと、皆さん言っておられたこと。
③出会った方々、すべての人が、日本を良くしたい、という気持ちで行動していること。

これらは各政党選挙事務所、共通に感じられたのである。
みな、日本を良くしたいと、真摯に願っておられる。
だれも、悪意を持って「日本を悪くしたい」という人は誰一人いなかったのである。
僕が出会った選挙事務所の皆さん、それぞれ個人個人は、日本の将来を良くしたいと切に願っていた。
ただその手法、手段のちがいで、政党同士は、時に対立している、という事なのだ。
また、出会った人の中には、これからも引き続きお付き合いをしてみたい、あるいは、もっとご教授願いたい、と思わせてくれる方もいた。
そんな僕は、今回の取材を通して、不思議に思う事がある。
「日本列島」という島国に住む「ニッポン人」と呼ばれる僕たちは、個々人は、それなりに、しっかりした見識、意見を持っている、と思う。
しかし「政党」や「会社」などの「組織」を作ってしまうと、なぜか日本人は、いきなり「個人」としての存在を、それはもう「見事なほどに」消してしまうのである。
まるで仮面をかぶったように、無表情の「のっぺらぼう」になる。
いったい、この現象は何なのだろう。
阪神淡路大震災、東日本大震災、福島第一原発事故、そして熊本地震。

次々と、この島国を災害が襲う。
そのたびに日本人の「振る舞い」は、海外から称賛され続けてきた。
誰も暴動を起こさない。
コップ一杯の水を求めて、災害派遣の給水車に３時間以上行列をする。
そして文句を言わない。
ワールドカップサッカーの時は、試合終了後、自らのゴミを集めて回る、若い日本人サポーター達の姿に、世界から称賛が寄せられた。
この「ニッポン人」とは、いったい何者なのか？
どういう人間の集合体なのか？
「個人」と「組織」そして「ニッポン人」とは何者か？
あまりにも巨大だが、僕なりに、これからも追いかけていきたいテーマである。
今回の取材でご協力いただいた、各政党選挙事務所の皆様に、厚く御礼申し上げたい。
そして僕は「取り残された99%」の人たちのために、この、ささやかな雑文集を捧げたいと思う。

平成28年7月9日　投票日の前日に
天見谷行人

選挙事務所に行ってみた！！

http://p.booklog.jp/book/108277

著者：天見谷行人
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/mussesow/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/108277

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/108277

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ